



編集・発行 山見妙勢能
日蓮宗 報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

ゆとり

新實信導

もう少し余裕を持てば、慌てずすんだのにと…。後悔することが多い。

毎日何かに追われている気がしてならない。早く起きれば別のことをしてしまいい、いつもの時間になる。炊事や洗濯などの生活用品にマイコンが内蔵され自動で動く。お風呂はスイッチ一つで自動でお湯はりしてくれる。昔にくらべれば生活が便利になって、余裕が生まれるはずなのに実際はそうではない。

子供の頃、お風呂は薪で焚いていた。初冬になると山にいった薪になる木を取りに行く。それを家に持ち帰って木を薪にするため、

適当な大きさに割る。それを積み重ねてお風呂を沸かす燃料とするのである。

お風呂を沸かすときは、まず、かまどに火をつけた新聞紙を投入し、そこに薪割りで出た細木を入れ、団扇であおぎ火力を大きくする。このとき、着火用の細木の選びかた次第で火が消えることもある。いかに着火しやすいか、火力を大きくできるか、選ぶ必要があった。次は薪の出番である。火を消さないように少しずつ薪を投入していく。お風呂が沸くには夏場で三十分、冬場だと一時間ぐらいかかり、今では考えられないぐらい時間を要した。しかも火の用心のためお風呂が沸くまで離れる事がで

きなかった。一度、薪を入れることができず、しばらくは何もすることがないので、かまどの火を見ながら、いろんな思いが頭を駆け巡ることもあれば、ただボーとしているときもある。

一見、時間を無駄にしているように思えたが、この時間が実は大切なのである。私たちは物事を早く処理することが良いことと思いがちだが、慌てて、失敗

や好機を逃してしまいうことも多々ある。

ゆとりとは、物事に余裕のあること。窮屈でないことだそう。物事に余裕を持つて取り組むときにゆとりは発生するものだ。信仰も同じだと思う。ゆとりを持つてじっくりと読経・御題目をお唱えすることで、煩惱を滅した有余の境地に達することができるのかも知れない。

《法華經に学ぶ現代》

〜純智庵〜

當に知るべし

是の人は

佛の莊嚴を

以て

自らを

莊嚴する

なり

『法師品第十』

どんなに虚勢を張ったって他人は褒めてはくれませんがまずは態度を控え目に威嚴というのはいと心の中から出て来ます金や力じゃ無理ですよそこに気づいて励むならどんな人にもあなたにも徳の光は宿ります

【9月の主な行事】

- ☆八朔会祈禱祭 3日(日)終日
- ★写経会 10日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(金)13時
- ★星嶺演奏会 17日(日)11時
- ★星嶺茶論 17日(日)13時
- お題目の太鼓練習です
- ☆秋季彼岸会法要 22日(金)13時
- ご先祖の供養をお申込下さい
- ★鷗様月例祭 22日(金)15時

【10月の行事予定】

- ★写経会 8日(日)11時
- 初心者の方もどうぞ！
- 写仏もできます
- ★星嶺演奏会 15日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(日)13時
- ※10月の星嶺茶論はお休みいたします
- ★鷗様月例祭 22日(日)15時
- ※火伏守札を授与
- ☆お風入れ 宝物館公開展示 22日(日)〜24日(火)

◎年に一度の宝物館公開展示
《交通のご案内》
◆ケーブル&リフト毎日運行中

苦勞の後には

宮本 観靖

学校の夏休みも終わり、地域の子供達も元気に登校し始めました。

そんな子供達に「久しぶり！元気にしていた？夏休みはどうだった？」などと話しかけるのですが、多くの子供達からかえってくるのは、「めっちゃ忙しかった」という返事です。

話を聞いてみると、塾などの夏期講習、習い事の練習、夏休みの宿題の自由研究等を作る体験型学習、そしてその間をぬっての帰省や旅行。スケジュールを話してくれるのですが、夏休みなのに休みなしで動いているという感じで、だらだら過ごしていた私の子供の頃とは違い、本当に大変そうです。

しかし、子供達はそう言いながらもその実、嬉しそうな顔もしています。なぜなら、勉強なら苦手な科目

がわかる様になった事や、水泳を習っている子は二十五メートル泳げる様になった事、野球をやっている子ならよく打てる様になった事など、自分たちが成長した事を実感出来ているからです。

私の子供達でもみていると、出来なかった事が出来るようになって、苦手意識を克服した時は喜びと同時に自信がついた顔つきとなり、成長したなと感じることが出来ます。

もちろん出来るようになるには失敗や苦勞もしますが、こんな時いつも思うのが、法華経に説かれている「化城の喩え」です。

それは歩き疲れて諦めかけた私達の為に、仏様が仮の城を作られ私達を休ませてくれる。私達が元気を取り戻すと仏様は目的地を示し「さあ、あと少しだ。頑張ろう」と励ましてくれる。というお話ですが、子供達を見ていても、一生懸

人は一人では生きられず、いろいろな方のお世話になってなんとか生きています。

もっとミクロの視点で観ると身体の内部でも腸内細菌のおかげで人間だけでは採れない栄養を摂取できているのだとか。

草や木ですら、根に付く菌によって、自分

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

で生成できない栄養をお互い与合作して生きているという。子細に見てみると、世の中は無駄な物など何一つないのかもしれない。

私たちが信仰する法華経は全てが平等に価値があるのだと説く教えだ。生きづらい世の中と言われるが、精一杯生きていきたい。U.K

俳壇

（みのり）

無事祈る法鼓響くや八朔会

祖師像に秋風猛る法難会

空の色風の音にも秋を知る

ぐずる児に大喝一声日雷

翳の声に埋まる山の宿

暦のあれこれ

暦と人々

今まで暦の選日による吉凶判断をみてきましたが、昔の人々は今の私達とは比べられない程、暦の吉凶判断を気にしていました。特に平安時代の貴族の生活は、暦に支配されていたといっても過言ではありませんでした。

当時の貴族たちの日記等の記録をみてみると、朝一番でまず暦で吉凶を知り、その日は暦に書かれている様々な細かい約束事を守るなど、吉凶判断の通り行動しなければならぬとされていました。

それ以外にも、入浴や手足の爪を切る日、出かけてはいけない日など様々な決まり事がありました。

この時代は朝廷の儀式の日だけでなく、個人の生活のすみずみまで暦の吉凶を元に行動するようになっており、平安貴族は朝から夜まで暦の吉凶に縛られていたのです。